活動の評価【有形効果】 R7.8月分処方数集計

備北地区・地域フォーミュラリ

No.1：(高血圧症)アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ARB)
No.2：経口酸分泌抑制剤(PPI・P-CAB)
No.3：HMG-CoA還元酵素阻害剤(スタチン)
→ 2023(令和5)年9月～

No.4：α-グルコシダーゼ阻害薬(2 型糖尿病用)
No.5：第2世代抗ヒスタミン薬
No.6：消炎・鎮痛剤(内用剤)
→ 2023(令和5)年12月～

No.7：口腔領域小手術後の抗菌薬
No.8：経口ビスホスホネート製剤
No.9：ヘルペス治療薬
→ 2024(令和6)年6月～

No.10：(高血圧症)ジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬
No.11：グリニド系糖尿病用薬
No.12：多価不飽和脂肪酸製剤
No.13：尿酸生成抑制薬
→ 2025(令和7)年4月～

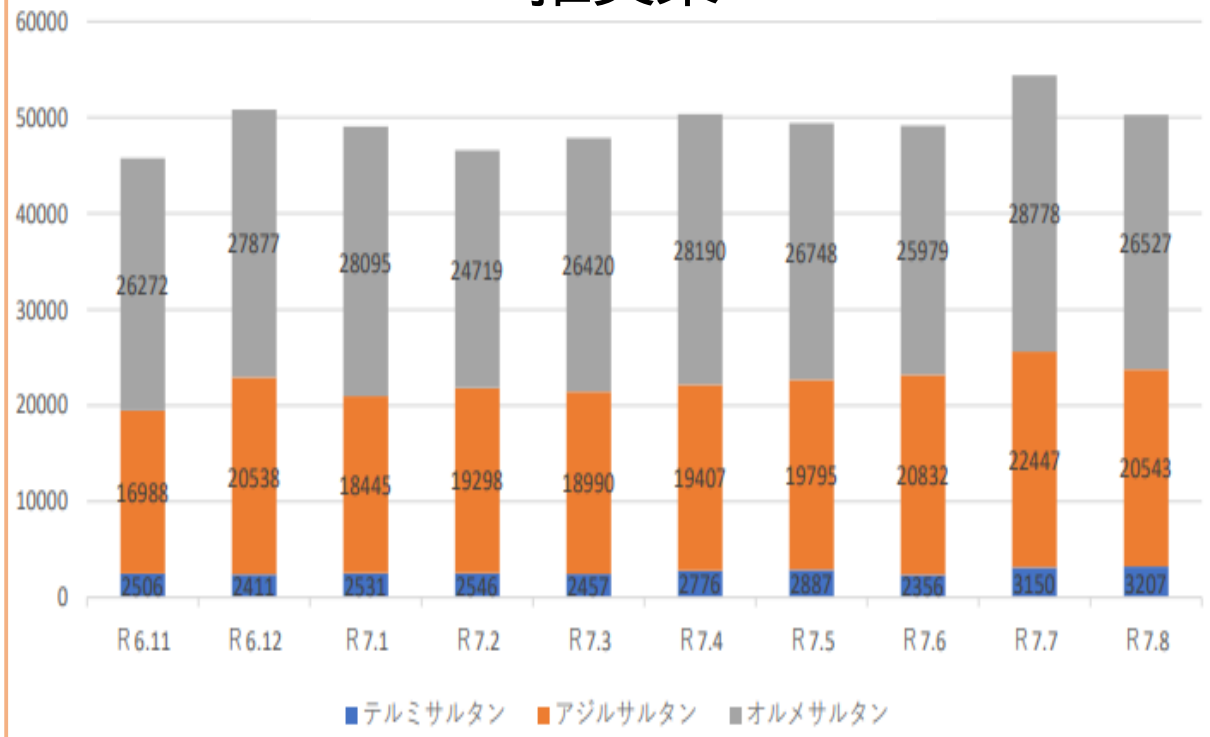
2025年8月処方集計（4病院）

ARB　アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬 処方数比較（4病院）

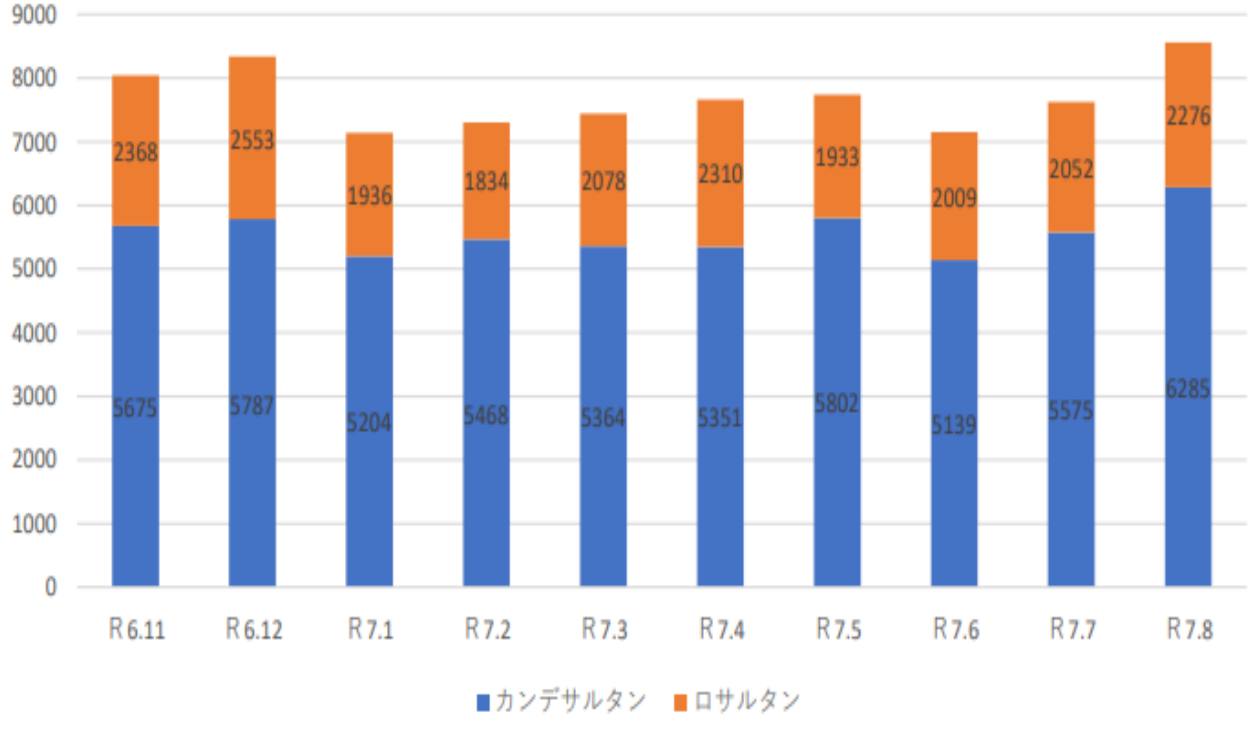
ARB	各病院コメント
三次中央	アジルサルタン錠とオルメサルタン錠の使用量が拮抗しています。
三次地区医療センター	アジルサルタン・オルメサルタン・カンデサルタンが増加し、総量も増しました。 推奨薬の比率はほぼ変動無しです。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	安定して処方はされている。

2025年8月処方集計（4病院）

推奨薬



オプション薬

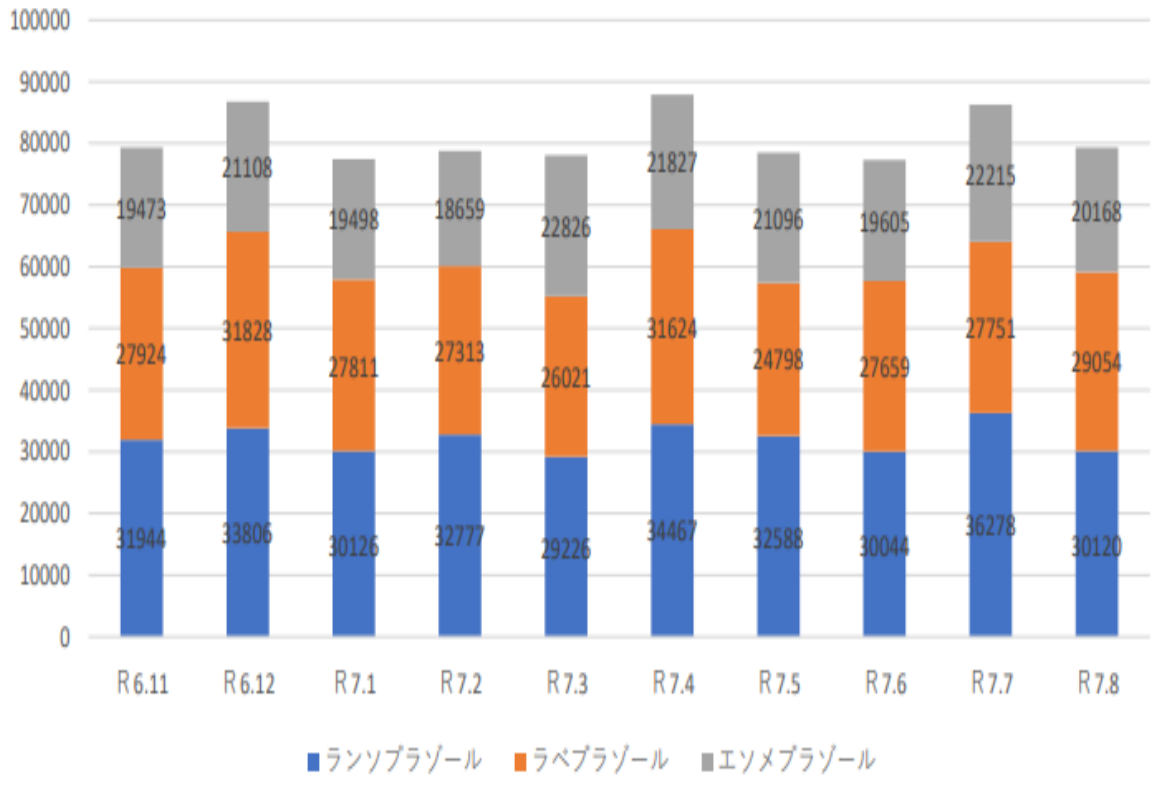


PPI.P-CAB 経口分泌抑制剤 処方数推移（4病院）

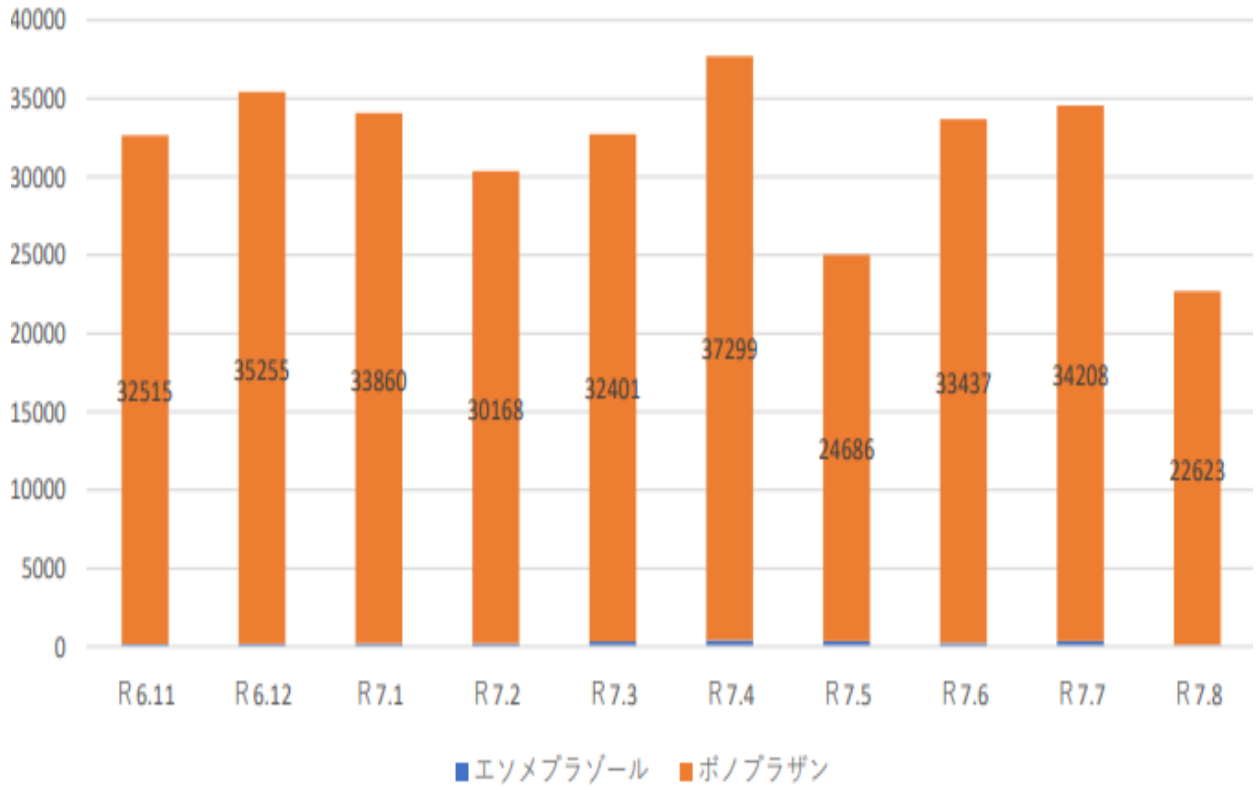
2025年8月処方集計（4病院）

PPI, P-CAB	各病院コメント
三次中央	使用量トップはランソプラゾール錠15mg、 エソメプラゾールカプセルが微増しています。
三次地区医療センター	ラベプラゾール・エソメプラゾール・ボノプラザンが増加、 ランソプラゾールは減少しています。推奨薬の比率はほぼ変動無しです。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	ランソプラゾール30mgの処方が「0」ではあるが、 その分ラベプラゾール10mgの処方が伸びている。

推奨薬



オプション薬



地域フォーミュラリに明記している内容「ボノプラザンの治療は限定的」を医局会で周知

※**ボノプラザン**は、消化性潰瘍診断ガイドライン2020で**ヘリコバクター・ピロリの一次除菌治療**では、その除菌率の高さ、治療効果（制酸効果）の高さから使用が推奨されている。

また胃食道逆流症（GERD）診療ガイドライン2021では**重症逆流性食道炎の初期治療**として使用することを提案されているが、**限定的な患者への使用**と考えられ、薬価も他剤と比較して高額であることからも推奨薬とせずオプションとした。また、ボノプラザンは英国および 米国で販売されていない。

2. 薬価比較

一般名	ランソプラゾール		ラベプラゾール		エソメプラゾール		ボノプラザン
製品名	GE	タケプロン（先発）	GE	パリエット（先発）	GE	ネキシウム（先発）	タケキャブ（先発）
1日薬価（標準投与量）	20.8～36.0円（30mg）	39.7円（30mg）	20.3～32.3円（10mg）	43.6円（10mg）	41.8円（20mg）	CAP:69.7円 顆粒:93.9円（20mg）	144.8円（20mg）

2025年8月処方集計（4病院）

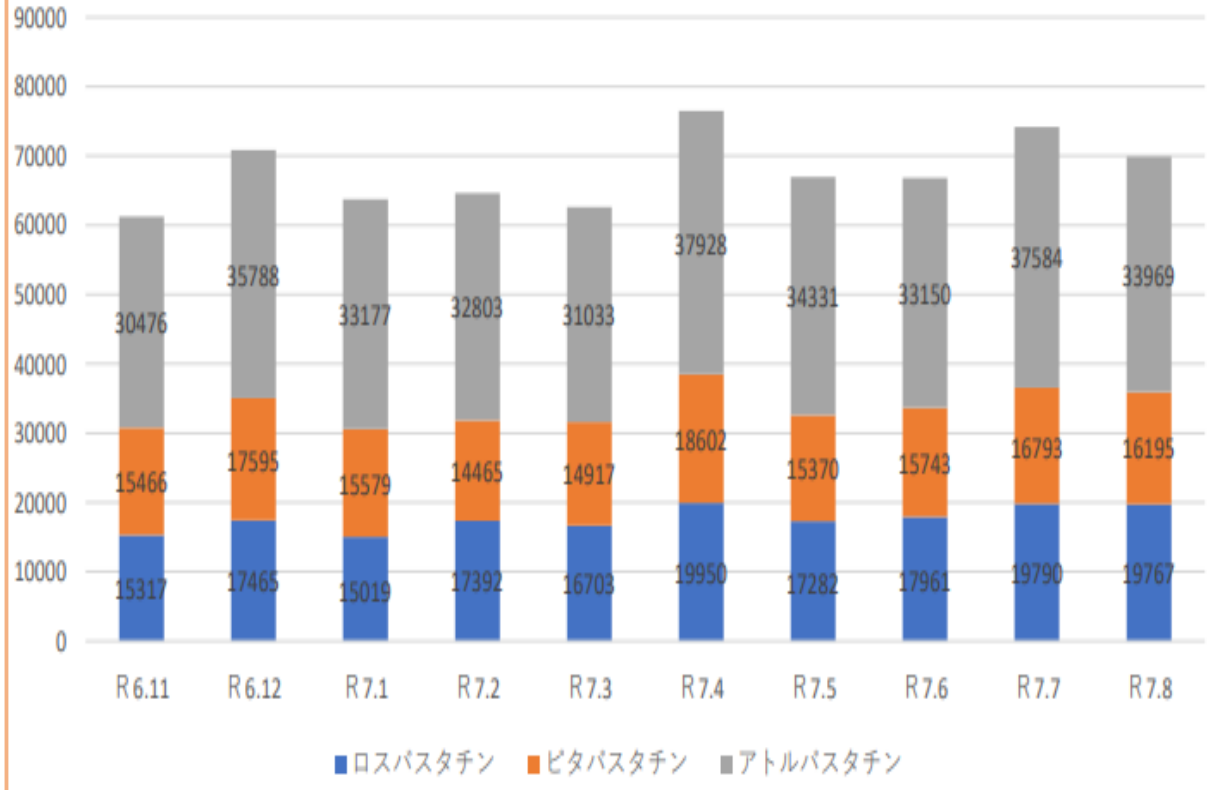
上表は成人の胃潰瘍治療に処方される標準用量の1日薬価である。

スタチン　HMG-CoA還元酵素阻害剤処方数比較（4病院）

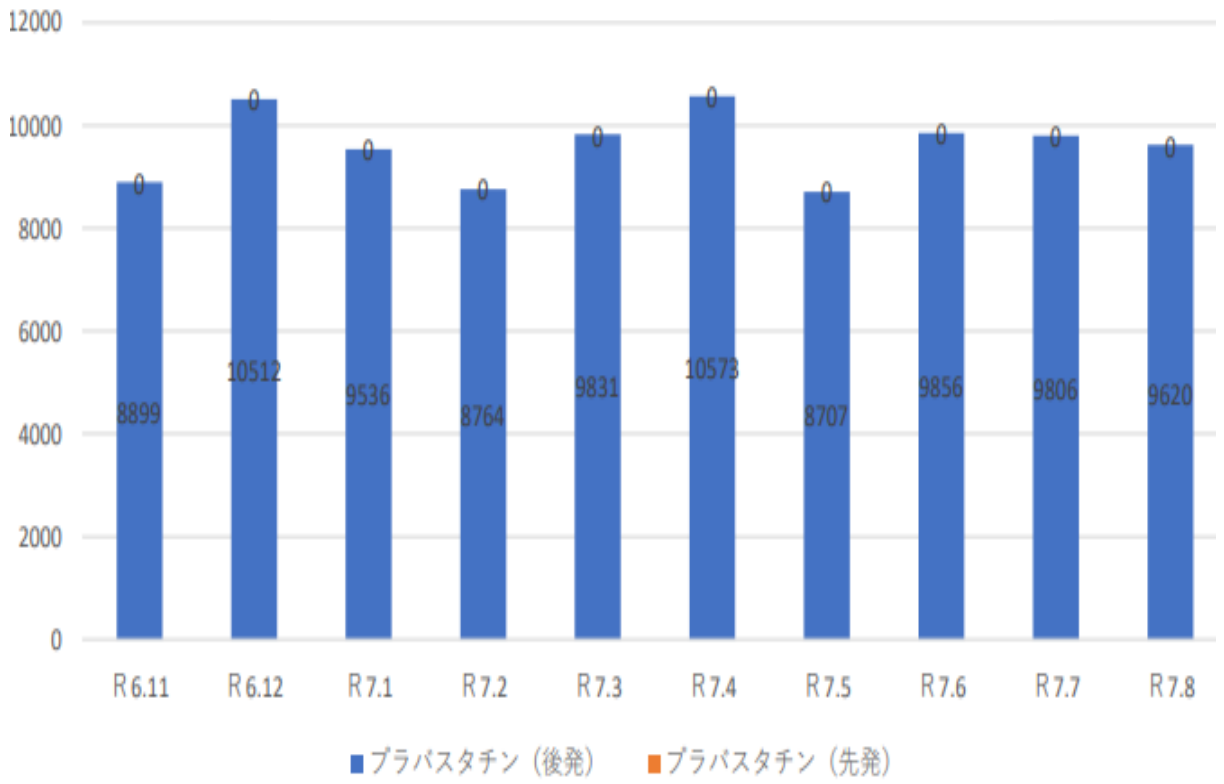
2025年8月処方集計（4病院）

スタチン	各病院コメント
三次中央	使用量トップはアトルバスタチン錠、ロスバスタチン錠が微増しています。
三次地区医療センター	アトルバスタチンが半減していました。推奨薬の比率は月変動はあるも、長期的には横ばい状態を保っています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	安定して処方はされている。

推奨薬



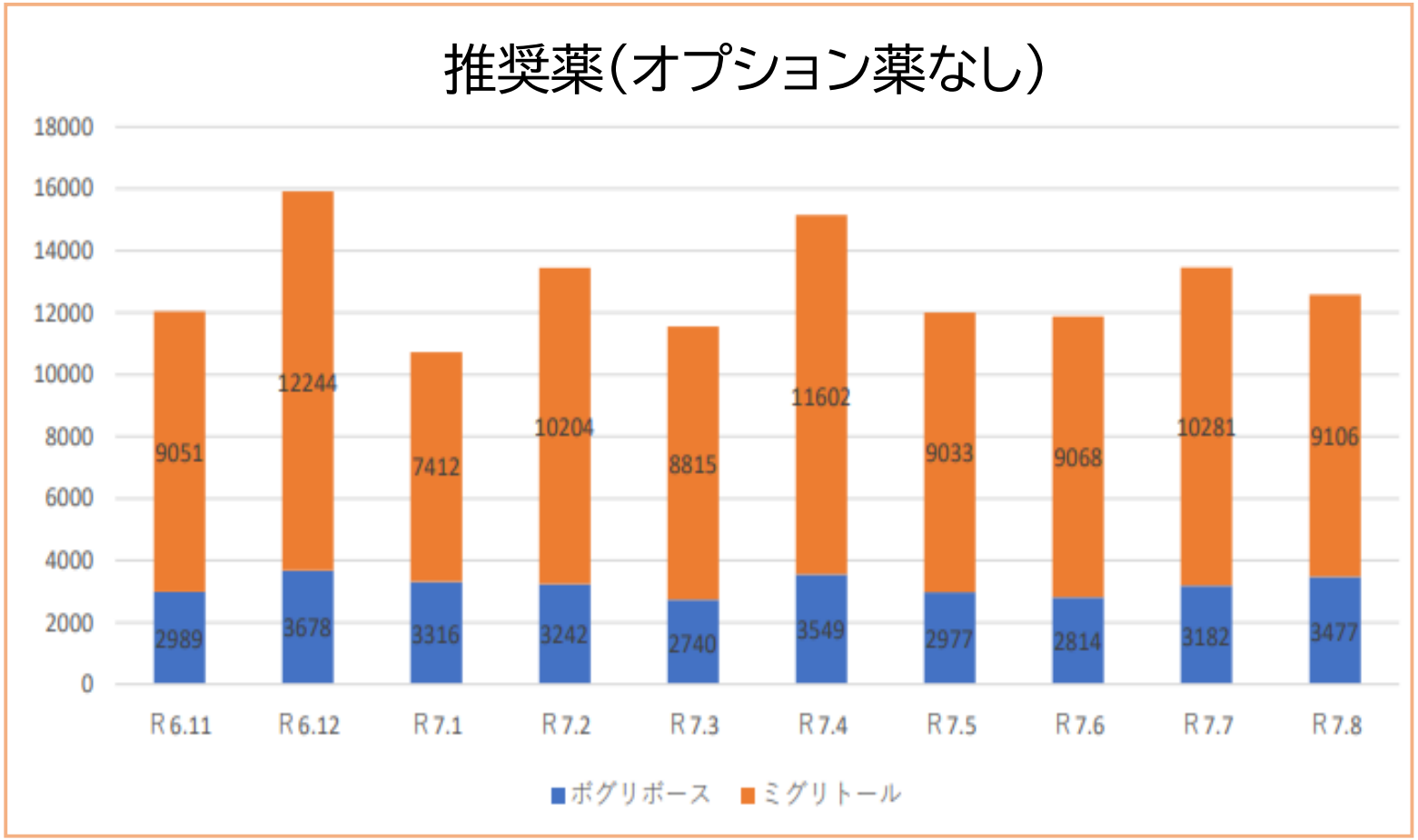
オプション薬



α-グルコシダーゼ阻害薬（2型糖尿病）処方数（4病院）

α-GI	各病院コメント
三次中央	全体的に横ばい
三次地区医療センター	ボグリボース処方なし、ミグリトールは半減と減少傾向にあります。
庄原赤十字病院	ボグリボース0.2mgの使用が開始されている
西城市民病院	ボグリボース0.3mgが若干伸びてきているように思える。

2025年8月処方集計（4病院）



◆その他の薬剤：アカルボースについて

アカルボースは、心血管イベントの抑制効果を検討した試験はあるが、副次的な評価であり、エビデンスレベルとしては低い[1)]。また、耐糖能異常患者において2型糖尿病の発症抑制が示されているが、日本では適応がない。なお、2022年5月に先発医薬品であるグルコバイ錠、同OD錠の販売中止がアナウンスされた。現在は後発医薬品のみが流通しているが、国内における処方量は極端に少なく、推奨薬とはならない。

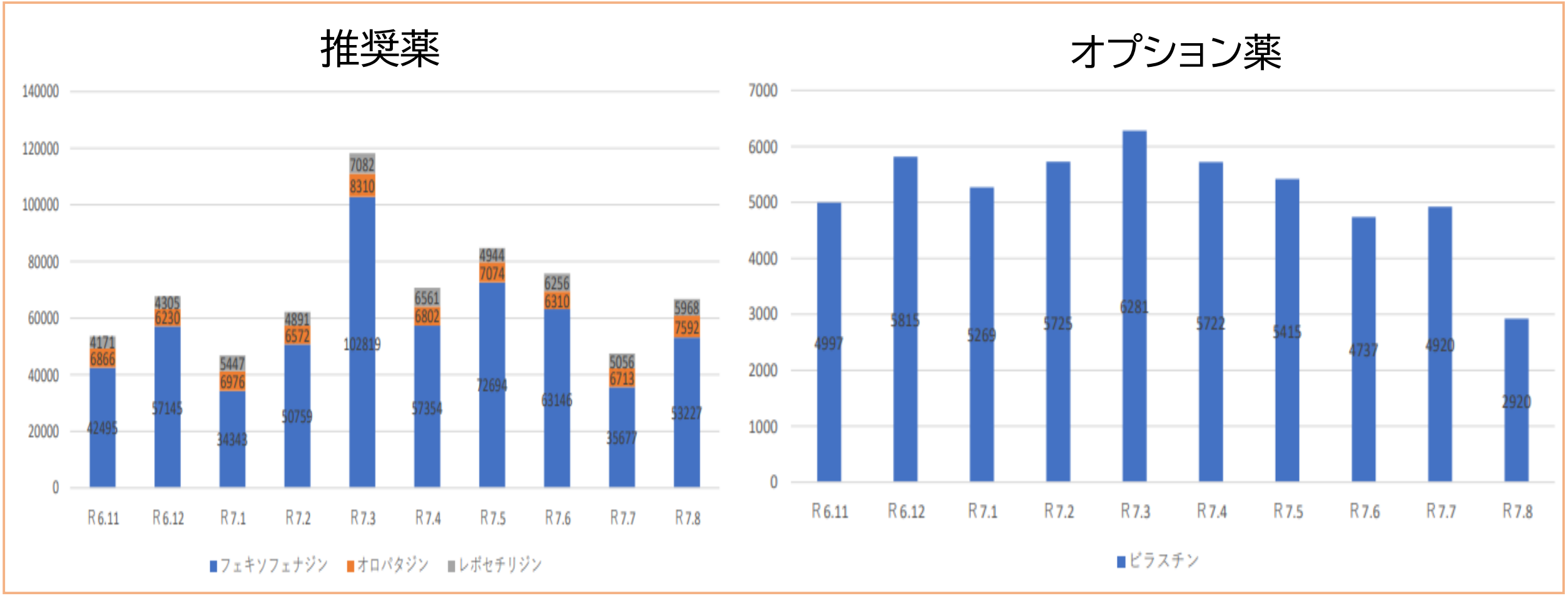
1)Jean-Louis Chiasson,et al. Acarbose treatment and the risk of cardiovascular disease and hypertension in patients with impaired glucose tolerance: the STOP-NIDDM trial.JAMA.2003 Jul 23;290(4):486-94.PMID: 12876091

第2世代抗ヒスタミン薬処方数推移（4病院）

処方数減少（変動）は季節性要因によるものがある。
全体的な変動としては少ない。

2025年8月処方集計（4病院）

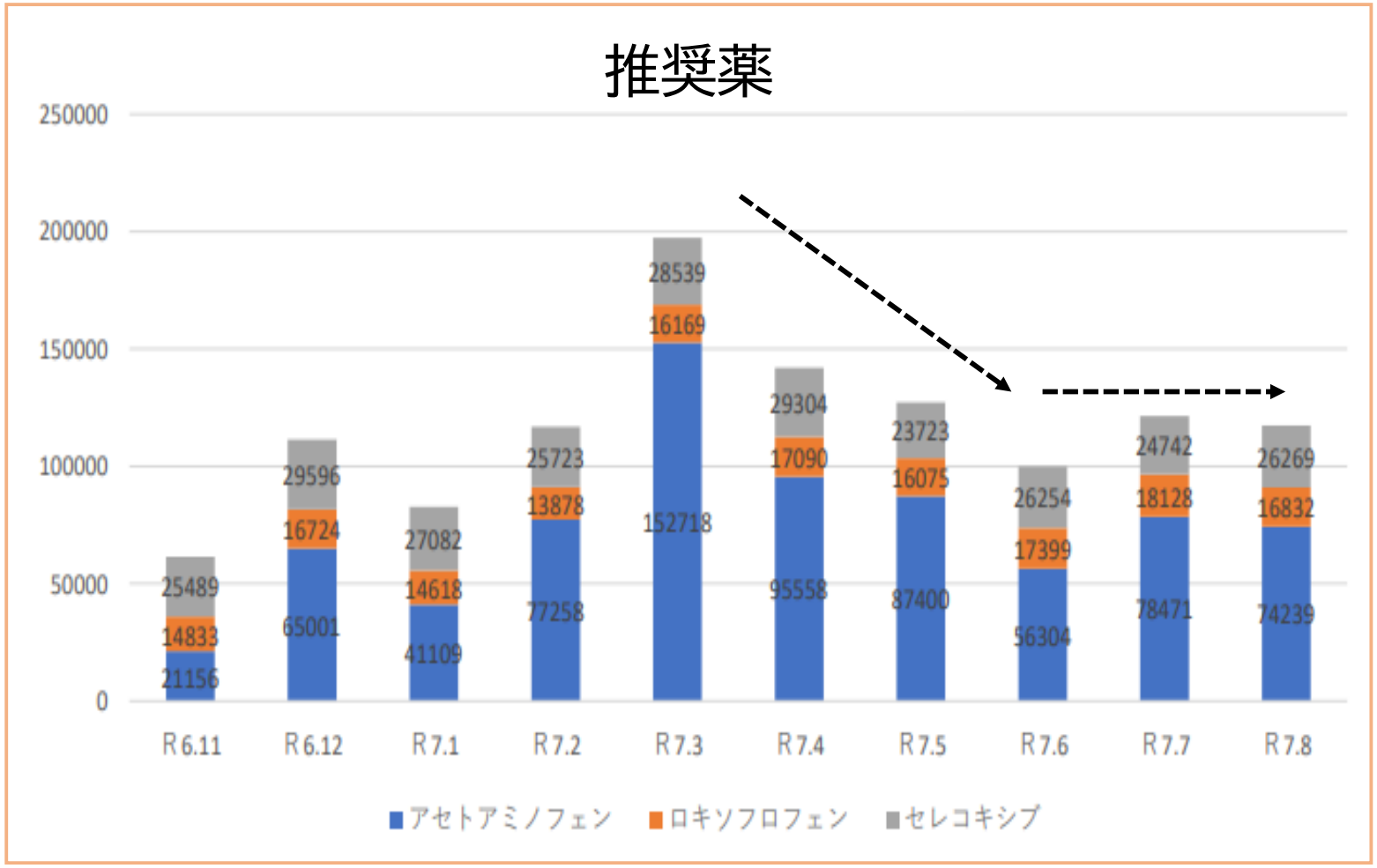
抗ヒ薬	各病院コメント
三次中央	全体的に若干減少傾向
三次地区医療センター	フェキソフェナジンが大きく減少、 オロパタジン・レボセチリジン・ビラスチンは増加しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	フェキソフェナジン60mgの処方が落ちてきているが、 レボセチリジン5mgの処方が増加傾向である。



内用　消炎・鎮痛剤の処方推移（4病院）

2025年8月処方集計（4病院）

消炎鎮痛薬	各病院コメント
三次中央	全体的に若干減少傾向
三次地区医療センター	いずれの薬剤も先月よりも2割程度増加しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	アセトアミノフェン300mg及び500mgが増加傾向となっている。



オプション薬

地域の特性から現在処方数推移の対象としていない

◆イブプロフェン、ナプロキセンは多くのガイドラインで使用が推奨されてはいるが、当地域での使用量は今のところ少ない。頻用されるロキソプロフェン、セレコキシブの流通量からみれば、イブプロフェンは100分の1程度、ナプロキセン（ナイキサン）は400～500分の1である。

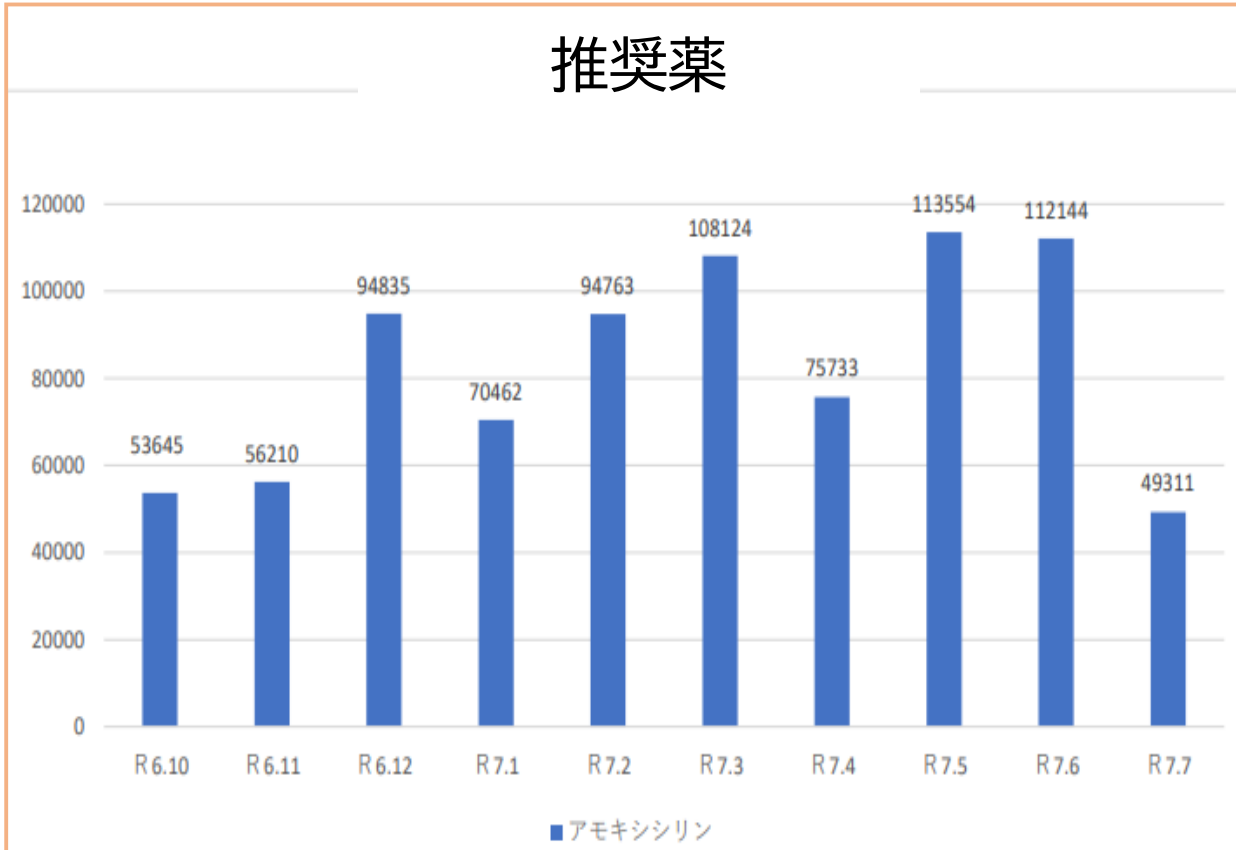
◆ジクロフェナクナトリウムは多くのガイドラインで推奨されている。COX-2選択性はセレコクシブと同程度と報告されている。坐剤、外用剤など複数の剤形を有するが、消化器系の副作用、心血管系有害事象に注意が必要である。また、ジクロフェナクナトリウムには徐放製剤（カプセル）があり、その用法・用量には留意が必要になる。通常、成人にはジクロフェナクナトリウムとして1回37.5㎎を1日2回食後に経口投与する。

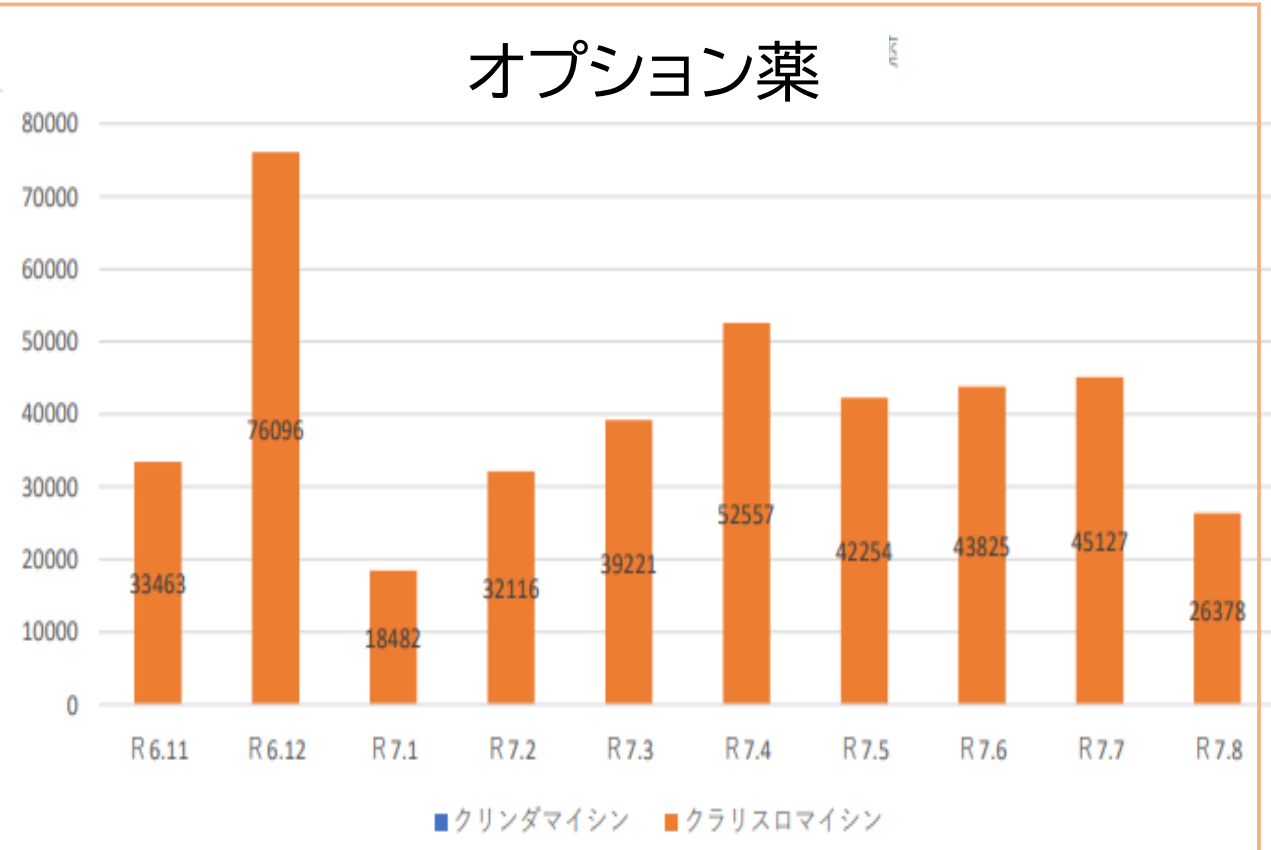
抜歯時・口腔領域小手術後の経口抗菌薬処方推移（4病院）

令和6年6月収載の地域フォーミュラリであり、
経過（推移）を見ている。
気道炎への処方の影響がある

歯口腔術後抗菌薬	各病院コメント
三次中央	全体的に若干減少傾向
三次地区医療センター	該当処方なし
庄原赤十字病院	対象薬剤の採用がない
西城市民病院	対象薬剤の処方なし

2025年8月処方集計（4病院）





経口ビスホスホネート製剤 処方数推移（4病院）

令和6年6月収載の地域フォーミュラリであり、経過（推移）を見ている

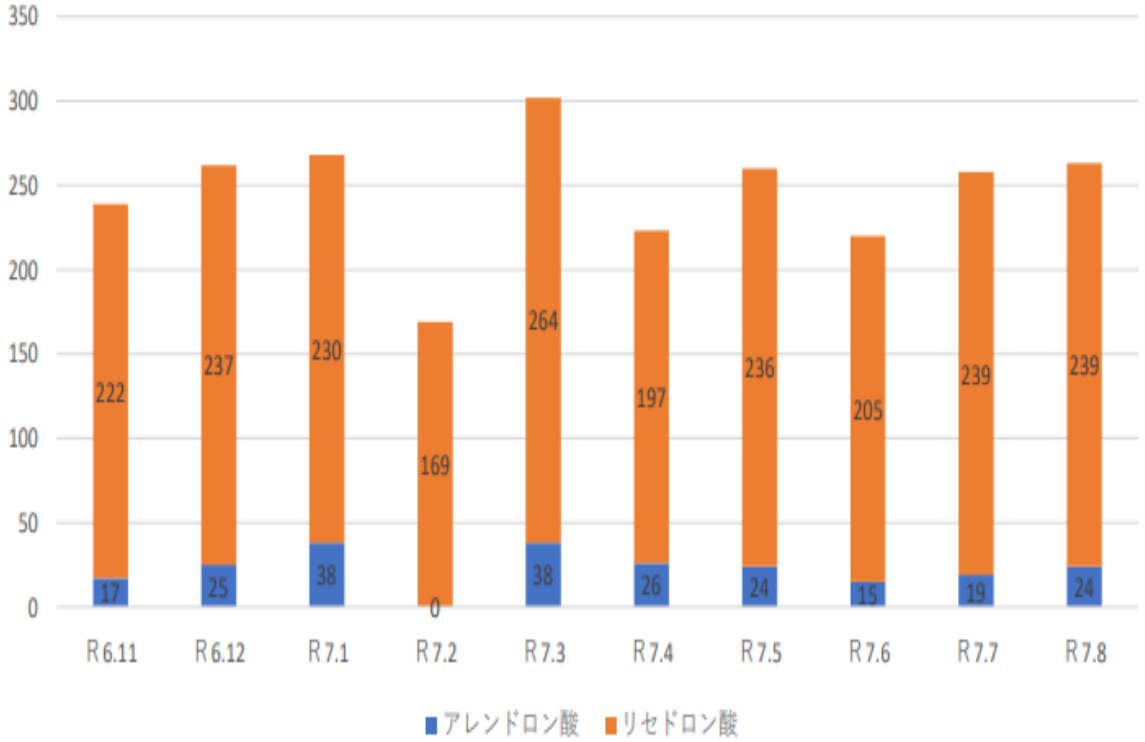
ビスホスネート製剤	各病院コメント
三次中央	引き続き、当院はミノドロン酸（オプション薬）の処方量が多い
三次地区医療センター	アレンドロン増加、ミノドロンも倍増しています。
庄原赤十字病院	対象薬剤の採用がない
西城市民病院	安定して処方はされている。

オプション：ミノドロン酸

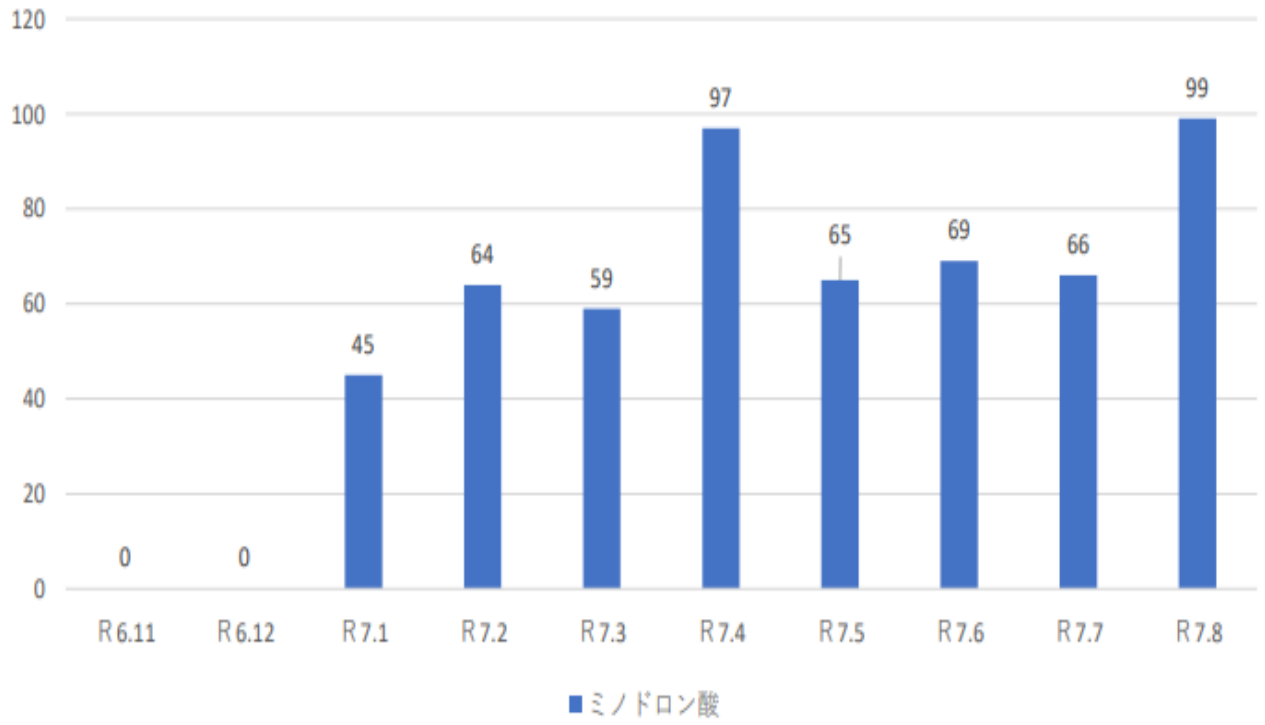
ミノドロン酸は推奨薬であるアレンドロン酸、リセドロン酸と比較して「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版」では有効性の評価は他剤より劣る。

ミノドロン酸は日本人骨粗鬆症患者を対象として、かつ、日本で承認された用量で骨抑制効果が検証された唯一のビスホスホネート系薬剤であると評価されている。すでに後発品は発売されているものの、推奨薬より薬価が高いことから、オプションとしている。

推奨薬



オプション薬



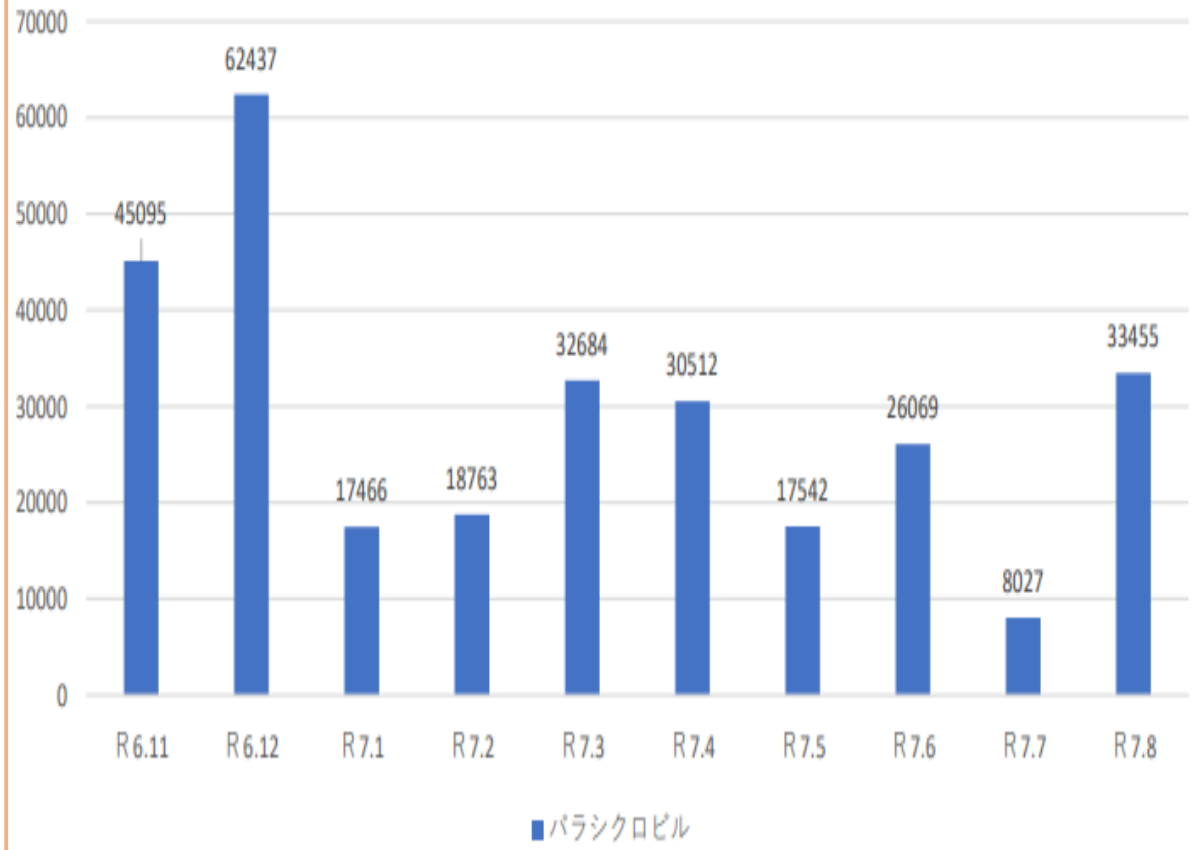
ヘルペス治療薬 フォーミュラリ（成人）処方数推移（4病院）

令和6年6月収載開始の地域フォーミュラリ

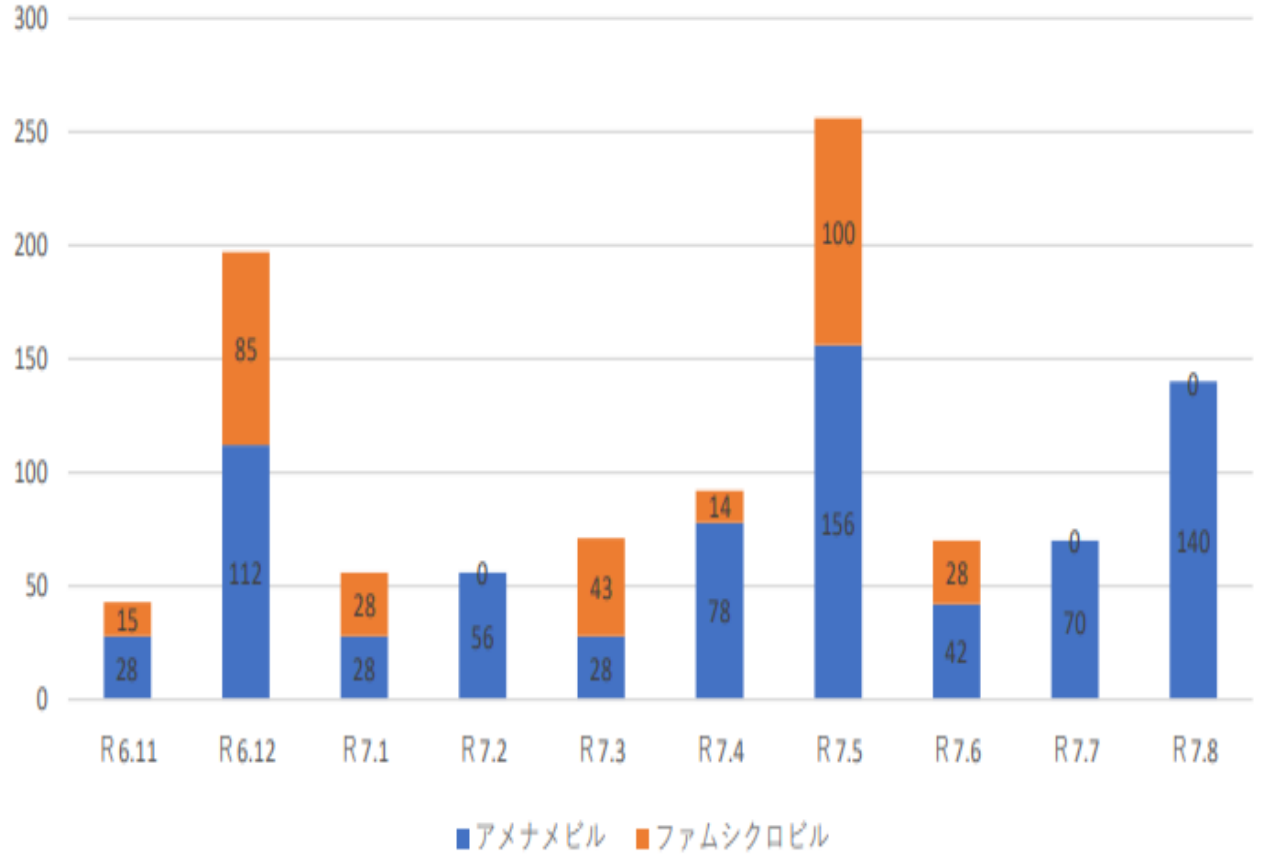
2025年8月処方集計（4病院）

ヘルペス薬	各病院コメント
三次中央	全体的に横ばい
三次地区医療センター	処方例なし
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	対象薬剤の処方なし

推奨薬



オプション薬



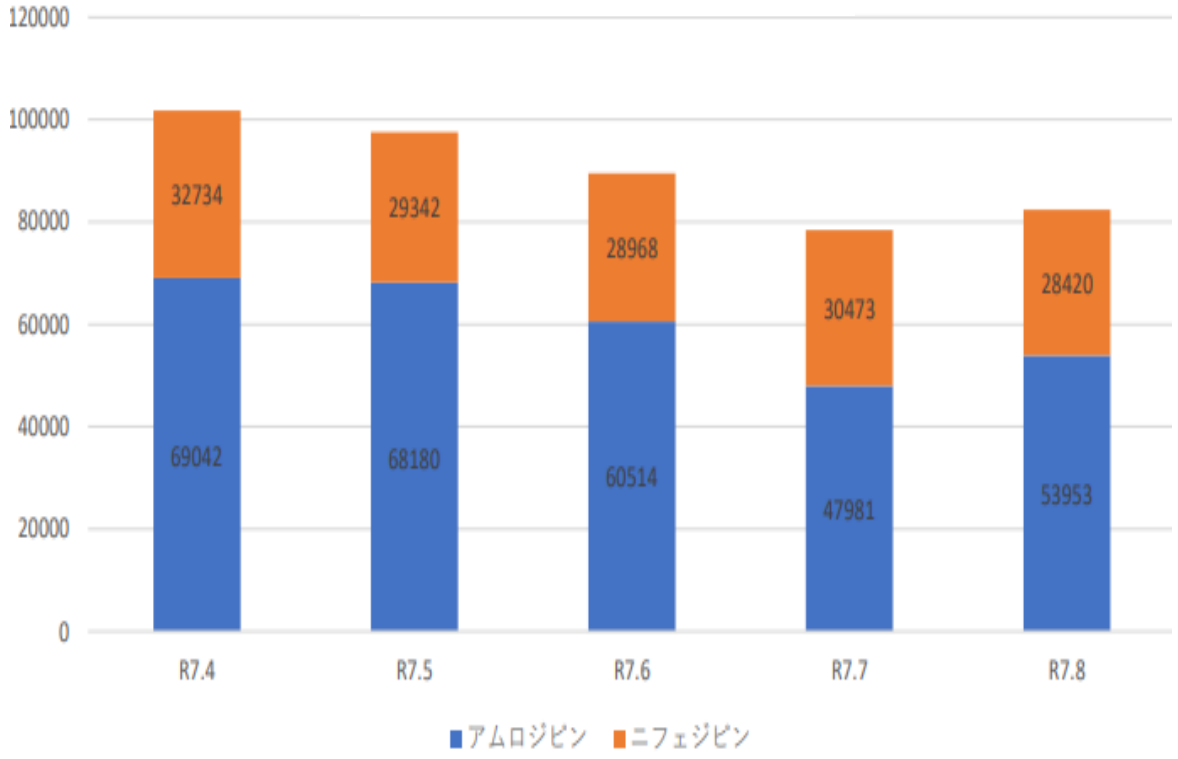
No10. ジヒドロピリジン系Ca拮抗薬（高血圧症）処方数推移（4病院）

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

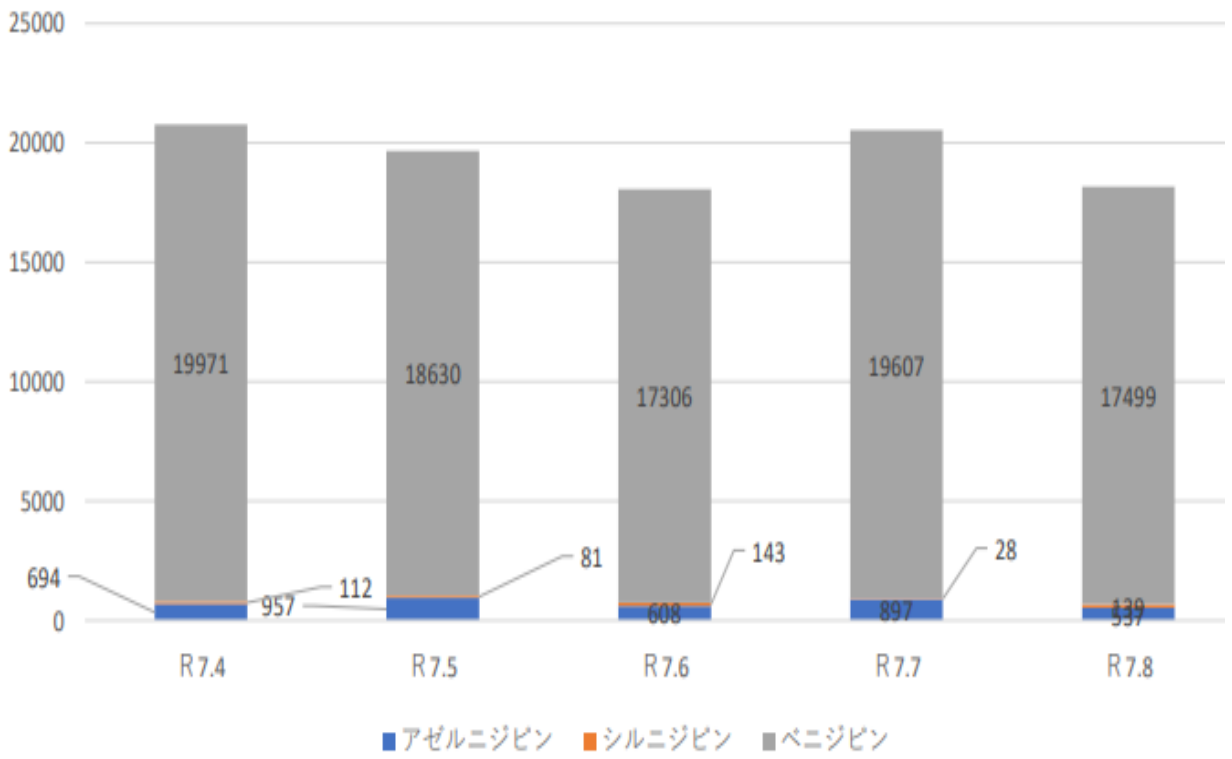
2025年8月処方集計（4病院）

Ca拮抗薬	各病院コメント
三次中央	推奨薬、オプション薬ともに横ばい
三次地区医療センター	ニフェジピン20㎎が倍増、 シルニジピン・ベニジピンも増加しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	安定して処方はされている。

推奨薬



オプション薬



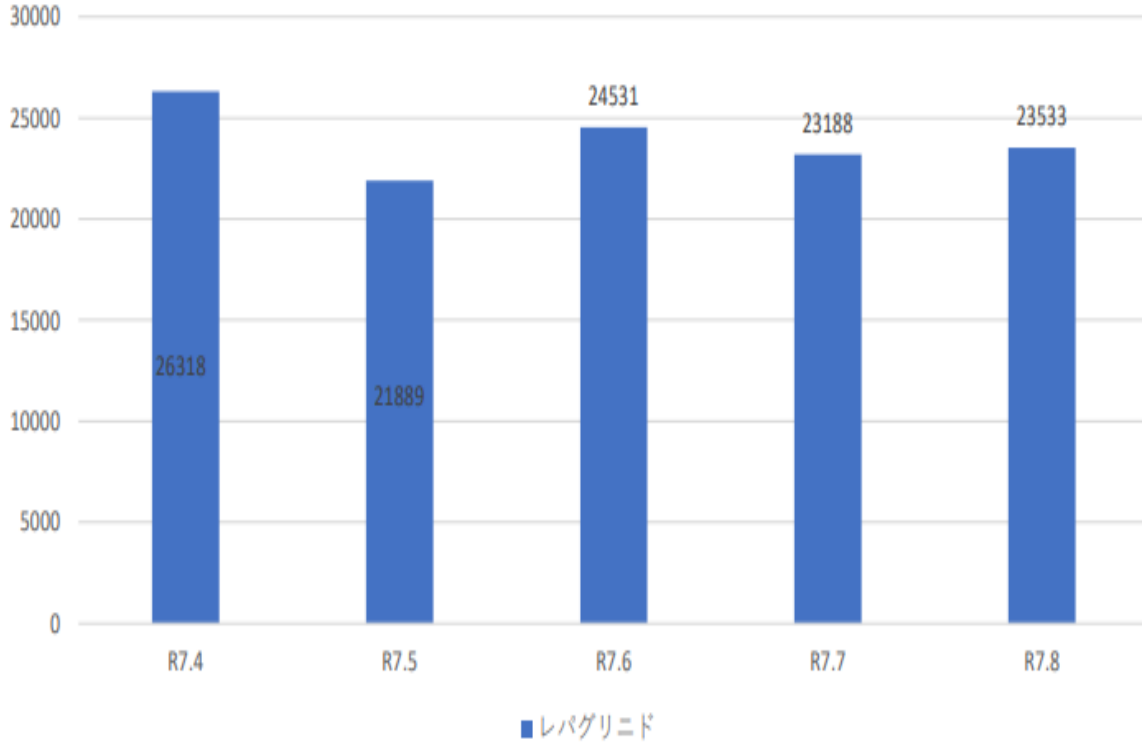
NO11. グリニド系糖尿病用薬 処方数推移（4病院）

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

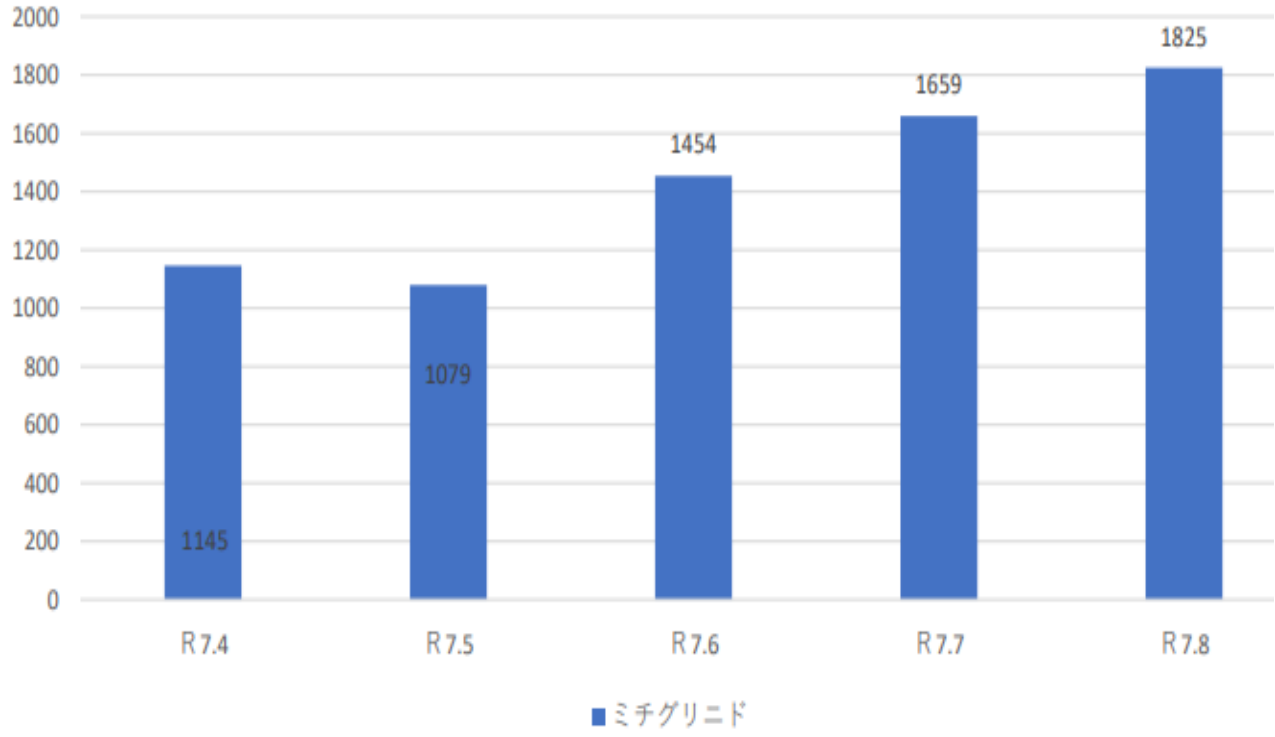
グリニド系糖尿病薬	各病院コメント
三次中央	圧倒的にレパグリニド錠の処方量の方が多い
三次地区医療センター	レパグリニドが減少しました。 ミチグリニドが大きく増加していますが、症例が少なく傾向は不明です。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	対象薬剤の処方なし

2025年8月処方集計（4病院）

推奨薬



オプション薬



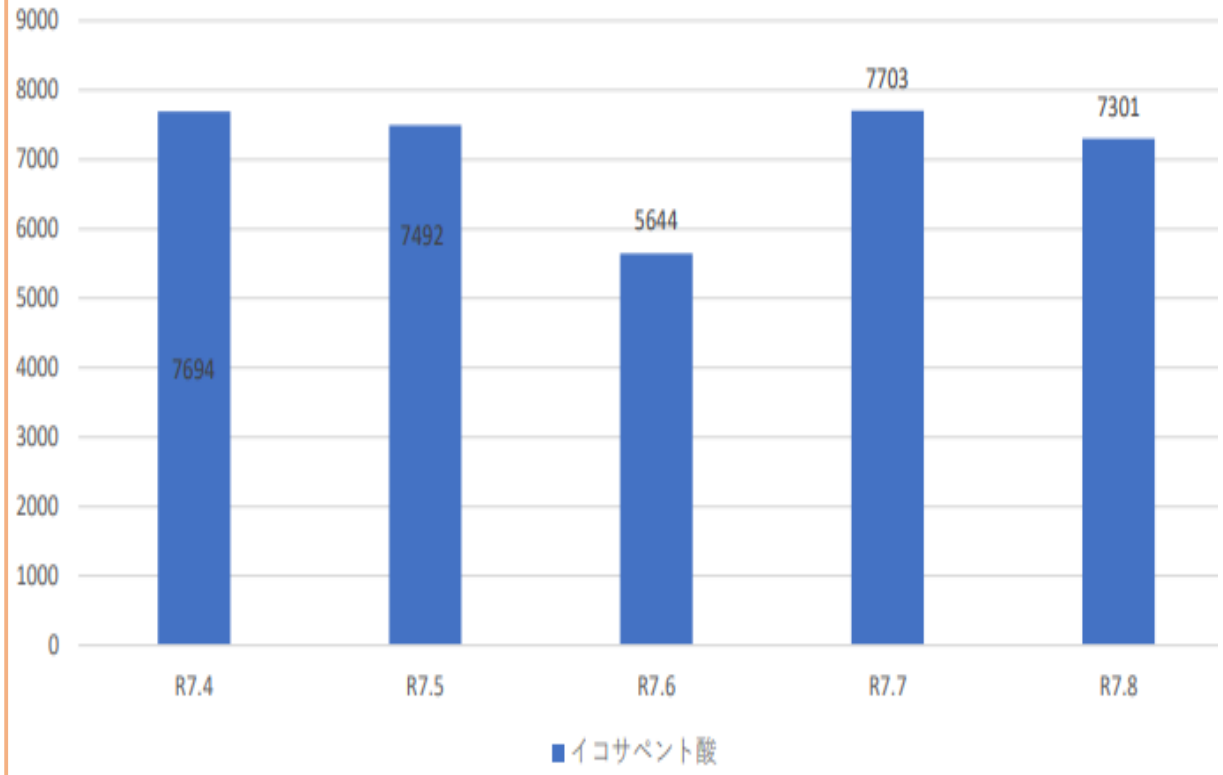
NO12. 多価不飽和脂肪酸製剤 処方数推移（4病院）

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

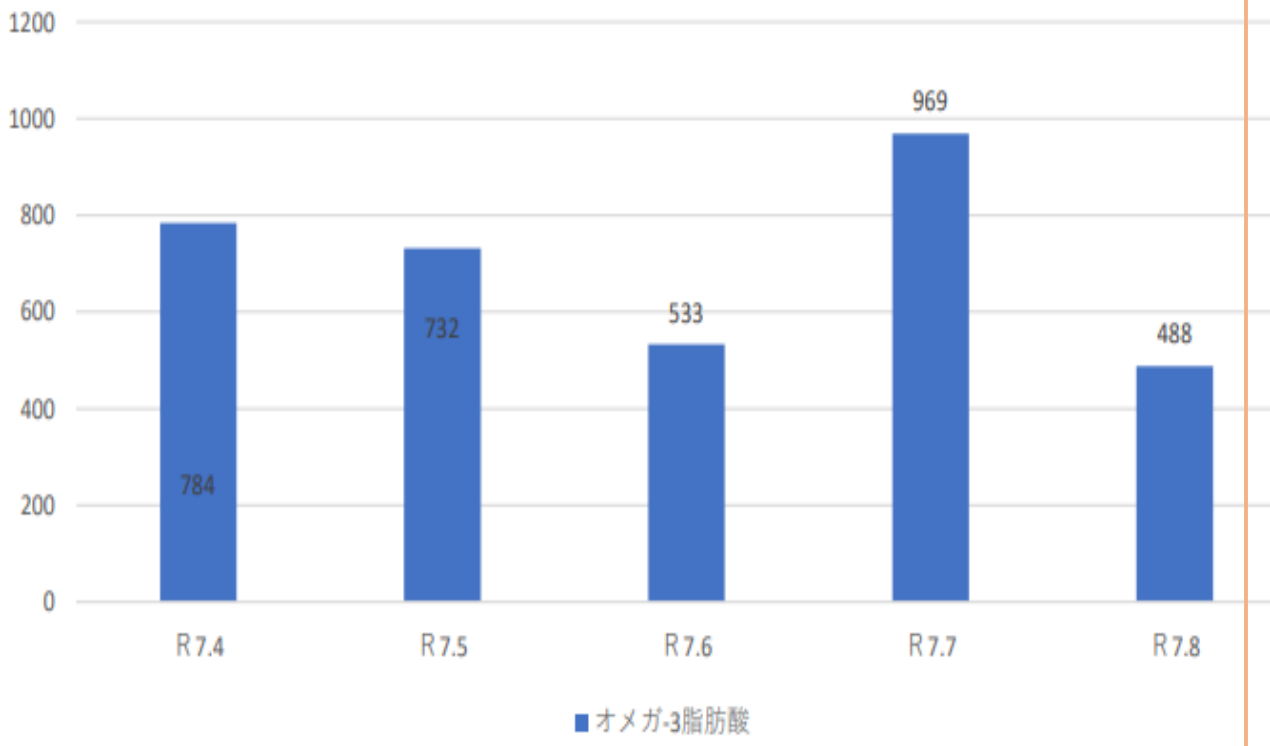
2025年8月処方集計（4病院）

多価不飽和脂肪酸製剤	各病院コメント
三次中央	イコサペント酸エチル900mgの処方量は横ばい
三次地区医療センター	処方例が増え、大きく増加しました。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	若干のばらつきがみられるが、安定して処方がされている。

推奨薬



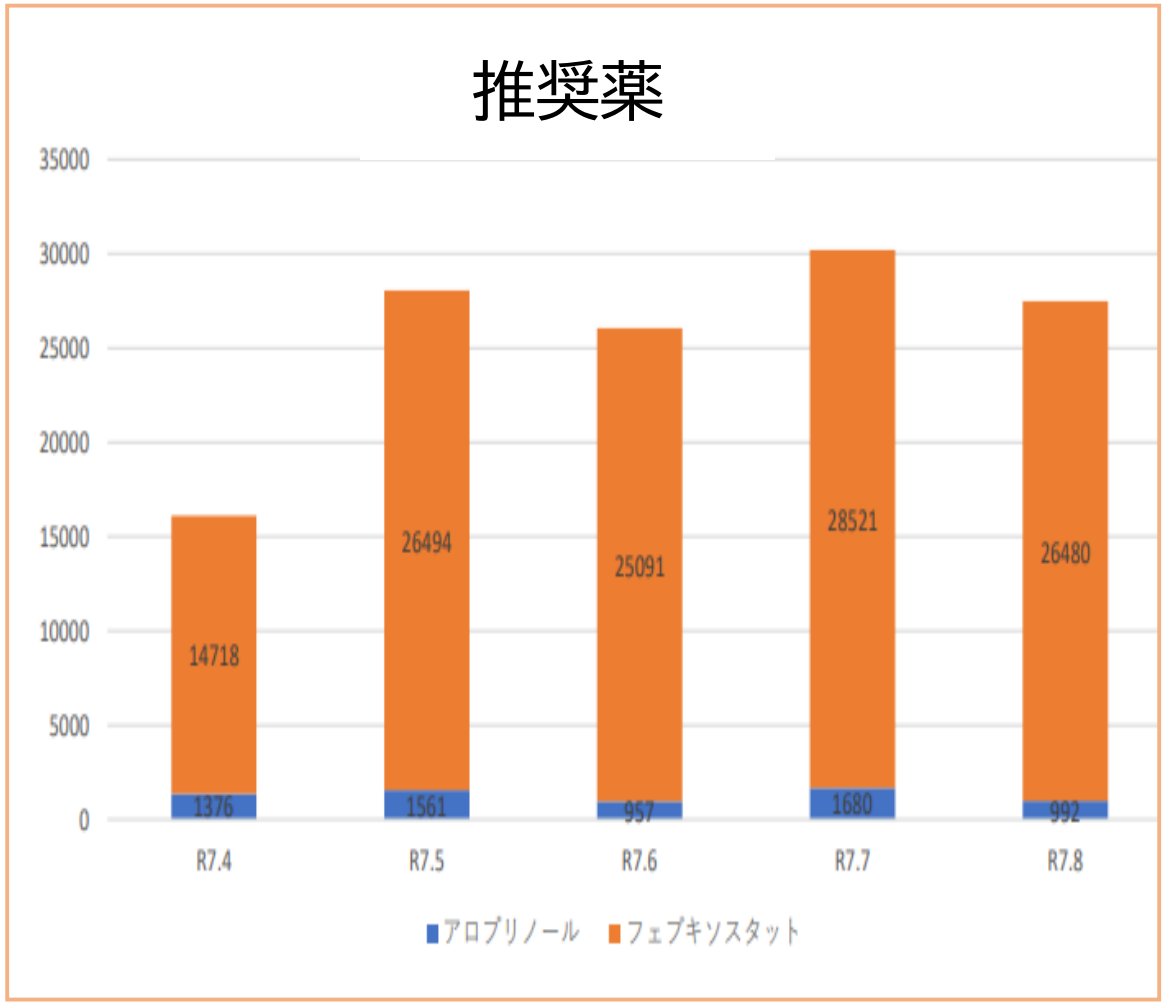
オプション薬



NO13. 尿酸生成抑制薬 処方数推移(4病院)

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

2025年8月処方集計（4病院）



尿酸生成抑制薬	各病院コメント
三次中央	全体的に横ばい
三次地区医療センター	アロプリノールが倍増しました。 フェブキソスタットは5月以降減少傾向が継続しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	高齢者も多く分割の処方も多い中、平均値よりも使用量は多い。

推 奨 薬	アロプリノール
	(後発)50mg・100mg(錠)
	フェブキソスタット
	(後発) 10mg・20mg・40mg(錠、OD 錠)
オ プ シ ョン	トピロキソスタット
	(先発)20mg・40mg・60mg(錠)　※GE なし

オプション薬としてのトピロキソスタットは、薬価が3倍高い先発品であることから推奨されないが、1日2回の服用であり尿酸値の日内変動を小さくしたいと判断した患者にオプションとして使用する。